

C02 1983年3月16日静岡県西部地震のアンケートによる震度調査

正木和明, 成瀬聖慈, 岡田成幸
(愛工大) (愛教大) (北大・工)

§1 序

1983年3月16日02時27分, 北緯34°48', 東経137°35', 深さ40kmに発生した静岡県西部地震(M=5.6)の震度分布とアンケート調査により求めたので報告する。

§2 調査方法

調査は北大(耐震工学研究室)で南麓さくらにアンケート用紙と静岡, 愛知, 三重の143市町村に函配(5975枚); 回収して行く水。また, 東三河地域の3市(新城, 豊川, 豊橋)には重点的に函配し(1500枚), 名古屋市付近は35小中学校を通じて函配(13800枚)した。回収率は78.2%であった。

§3 結果

静岡, 愛知, 三重県下における震度分布と図2に示す。得られた震度とI, 河角の式から求めた震度とI_Kとし, その差 $\delta I = I - I_K$ と図2に示した地質との関係を図3に示す。東三河における震度差 δI の分布を図5に示す。また図5に示した地質との関係を図4に示す。Rock A, B, Cはその水生成代堆積岩, 中生代火成岩, 同変成岩である。図3, 図4から震度差, つまり「ゆれやすさ」は地質と密接な関係にあることが明らかである。

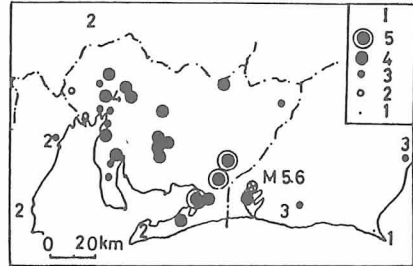


図1 気象庁発表震度および気震計, 簡易地震計による震度

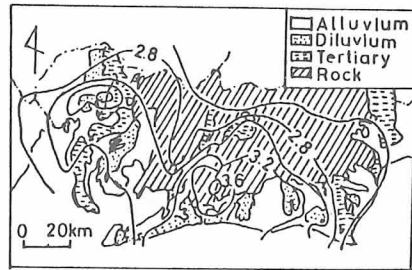


図2 アンケートによる震度と地質

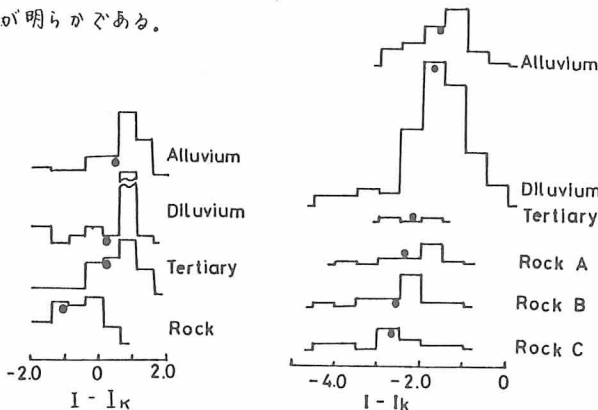


図3 広域における震度差と地質との関係

図4 東三河地域における震度差と地質との関係

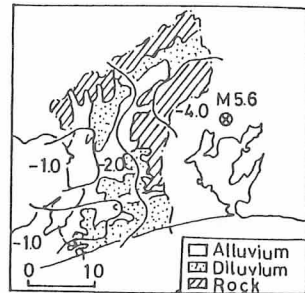


図5 東三河地域における震度差分布と地質